

# 松江城国宝指定成る

山村 賢治

(建築史学会員/株プロジェクト)



## 松江城天守 1棟

四重五階天守 地下一階付 本瓦葺  
前面附櫓一重 本瓦葺  
平面 447.13 m<sup>2</sup> 延面積 1,784 m<sup>2</sup> 高 22.43m  
附 祈祷札 2枚 鎮宅祈祷札 4枚 鎮物 3点  
建立年 慶長 16年 (1611年)  
国宝指定 平成 27年 7月 8日 (官報告示)  
所在地 松江市殿町 1番地 続 6  
所有者 松江市

## I. 建造物の国宝指定の仕組みと現状

- ① 文化庁（建造物課）の専門調査官・技官が全国各地の文化財に関する情報を収集し、地元研究者と共同して調査研究の上候補物件を検討し、文化財の指定及び登録の原案を作成する。
  - ② 文化審議会（専門部会委員＋専門調査会（外部専門家））により原案について審議し、その結果を文部科学大臣に答申する。指定は重要文化財、登録は登録有形文化財がある。
  - ③ 文部科学大臣は、文化審議会の答申を受けて重要文化財として指定。重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高い国民の宝たるものを国宝に指定できる。（文化財保護法 27条 2項）
- ・平成 27年 11月 現在重要文化財（指定）2,445件（内国宝建造物 223件 松江城天守含む）
  - ・中国地区の国宝建造物  
（鳥取）三仏寺奥の院（投入堂）  
（島根）出雲大社本殿 神魂神社本殿 松江城天守  
（岡山）吉備津神社本殿・拝殿 旧閑谷学校講堂  
（広島）不動院金堂 浄土寺本堂・多宝塔 明王院本堂・五重塔  
厳島神社本殿他 向上寺三重塔  
（山口）瑠璃光寺五重塔 功山寺仏殿 住吉神社本殿
  - ・近年の国宝指定 石清水八幡宮本社（H27 京都）松江城天守（H27 島根）  
旧富岡製糸場（H26 群馬） 本願寺御影堂・阿弥陀堂（H26 京都）  
鏝阿寺本堂（H25 栃木） 歓喜院聖天堂（H24 埼玉） 久能山東照宮本殿（H22 静岡）

## II. 松江城の国宝指定のポイント

- ① 平成 24年 5月 祈祷札 2枚が発見され、「慶長 16年 正月 吉祥日」と記されていることやその後の研究により、建立年が慶長 16年 (1611)であることが明確になった。
- ② 2階分通し柱や包板の技法による柱工法などが解明され、天守建築に優れた技術を用いている事例であることが明らかになった。
- ③ 富田城から部材を転用したことが明らかにされ、山城から都市施設としての城郭への転換の様態を示すものとして、建築史、都市史、文化史的に価値が高いと認められる。

### Ⅲ. 現存 12 天守の比較 (太字は国宝、築年は西和夫による)

幕末に残存した 60 天守が戦前 20 まで減り、その後戦災 7、火災 1 で、現在 12 天守が存在

城名	所在地	創建／再建	重／階	天守高／型	その他
丸岡城	福井県	1576／1955	2／3	12.6／望楼	隅櫓 3 門 2
<b>松本城</b>	長野県	1615 (他説有)	5／6	25.0／望楼	櫓等 4 棟
<b>犬山城</b>	愛知県	1601 (望楼部 1620)	3／4	18.0／望楼	附櫓 1
<b>彦根城</b>	滋賀県	1606	3／3	15.5／望楼	西の丸 米倉
<b>姫路城</b>	兵庫県	1608	5／6	31.5／望楼	櫓 26 門 15
<b>松江城</b>	島根県	1611	4／5+地下 1 階	22.4／望楼	附櫓 1
丸亀城	香川県	1670	3／3	14.5／層塔	門 2
宇和島城	愛媛県	1601／1665	3／3	15.7／層塔	曲輪 3 など
備中松山城	岡山県	1683	2／2	11.0／層塔	曲輪 3 など
高知城	高知県	1603／1747	4／6	18.5／望楼	二重櫓
弘前城	青森県	1611／1810	3／3	14.4／層塔	櫓 3 門 5
松山城	愛媛県	1642／1859	3／4	20.0／層塔	櫓 5 門 2



松本城天守



犬山城天守

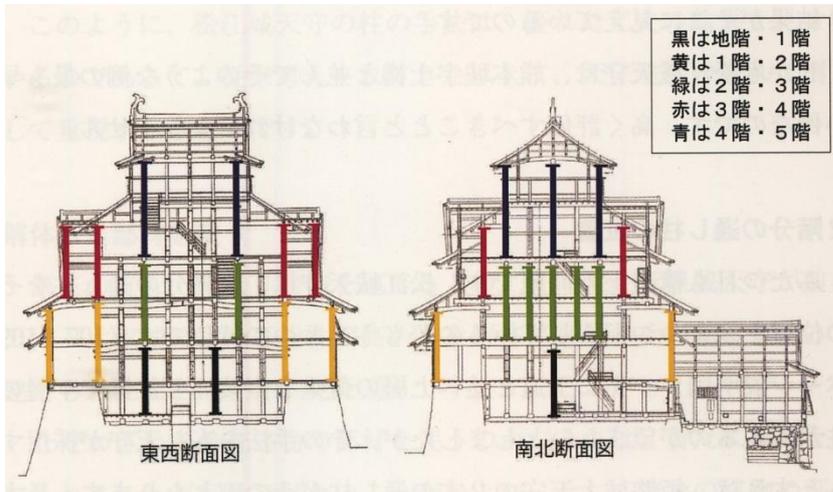
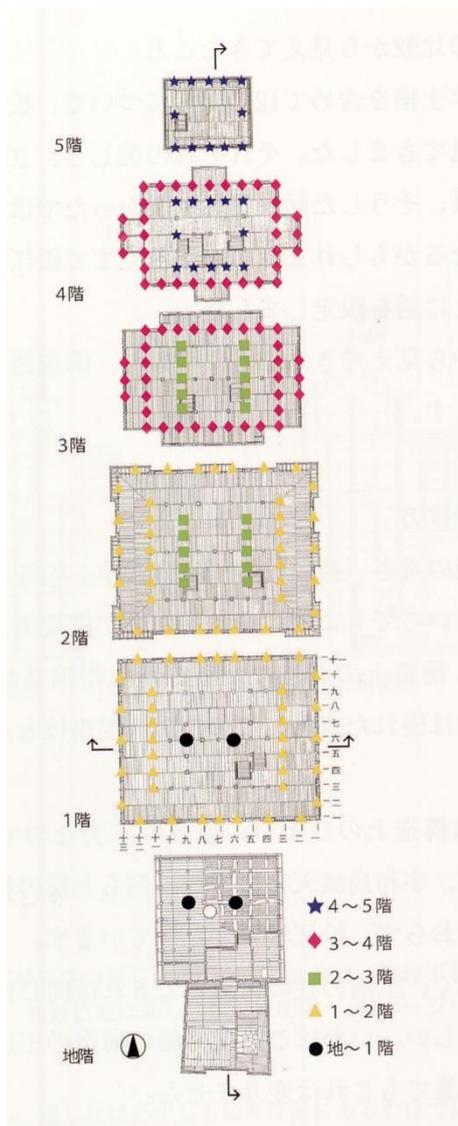


彦根城天守



姫路城天守

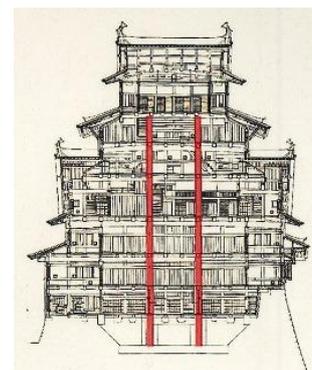
#### IV. 天守通し柱位置図（構造上の特徴）



\* 断面図の位置は、左の各階平面図の矢印位置



2 枚の祈祷札は地階の太い柱（左図及上図の黒い通柱、写真の左右太柱）に貼り付けてあったと考えられている。



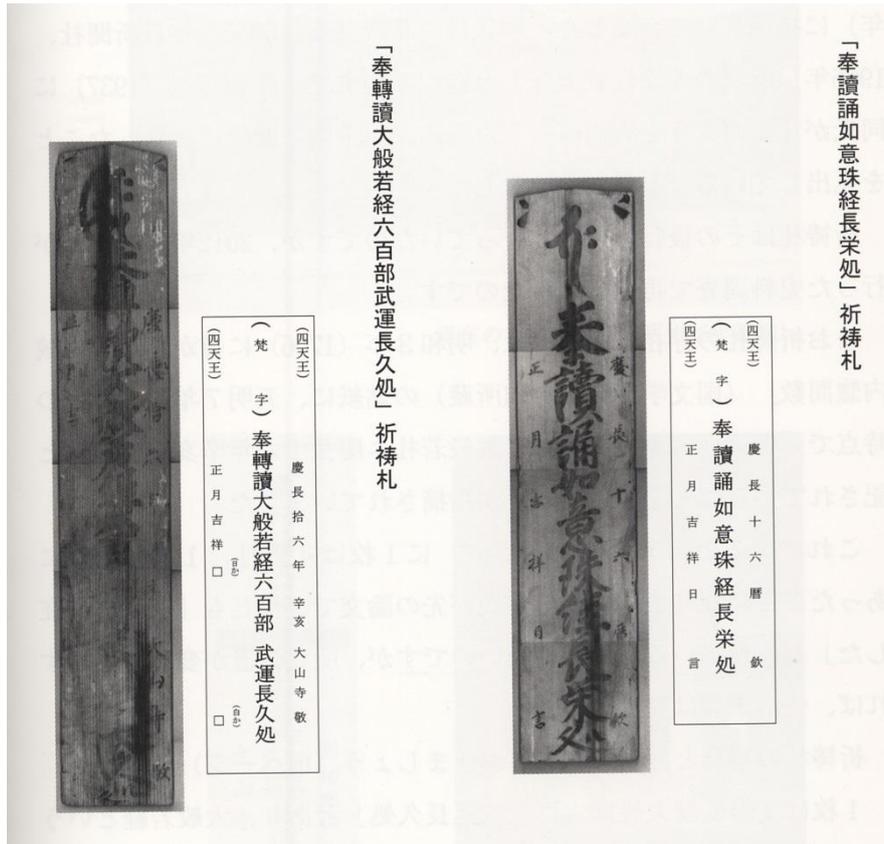
姫路城大天守断面図  
(赤柱が長大な通柱)

\* 参考図

(構造上の特徴)

1. 上層柱の荷重を同じ位置の下層柱で直接受けていない。  
姫路城のように上層までの通し柱は使用せず。長大な材木が得られなかったと考えられる。
2. 2階分の通し柱を位置を変えながら、バランス良く配置している。  
上層になるほど面積が小さくなる天守建築の宿命的な課題を、2階分ずつの通し柱という方法で解決している。
3. 富田城の部材を再利用している。  
主に地階と1階に富田城からの転用材（「富」の刻印あり）を使用。旧材の活用という面もあったが、工期の問題やや加工が容易などの理由も考えられる。

## V. 祈祷札について



祈祷札は、建物の完成を祝い将来の安全と繁栄を願って僧侶が祈祷したことを示すものであるが、左の1枚は大般若経600部を転読したことを示しており、右のもう1枚は如意珠経を読誦したことを示し、いずれも慶長16年正月の日付が書かれている。これが今回建立年が確定される根拠となったのである。転読とはところどころを飛ばして読むという意味であり、儀式のとき読経を部分的に省略することである。この場合僧侶は伯耆の大山寺から来たようである。

祈祷札は昭和12年名古屋工大城戸久教授の調査記録では、4階に掛けられていたことは記されているが地階についての記述はないという。昭和大修理（昭和25年～30年）の時か、或いはそれ以前に外されて行方が分からなくなっていたが、平成24年5月21日に松江神社に保管されているのが発見された。平成25年3月29日松江市文化財に指定され、松江歴史館に収蔵されている。

この2枚の祈祷札とは別に、「鎮宅祈祷札」4枚と「鎮物」一色（檜、祈祷札、玉石）が昭和大修理の際に発見されており、築城に際していろいろな形の祈祷が行なわれていたことがうかがわれる。いずれも平成26年11月26日に松江市文化財に指定され、松江歴史館に収蔵されている。

### <参考文献・資料>

1. 松江城再発見 西和夫 著 松江市ふるさと文庫16 (天守構造図、祈祷札)
2. 松江城の国宝指定答申について 卜部吉博 講演会資料 (国宝指定要因・評価等)
3. 現存12天守閣 山下景子 著 幻冬舎新書 (現存12天守の比較等)
4. 月刊文化財(平成27年8月号) 文化庁文化財部監修 (国宝指定の意義等)

<写真撮影> 山村賢治 (国宝5天守、松江城地下階の祈祷札が張られていたという柱)